2023年度プロジェクト報告（遠藤隆吉研究所）

千葉商科大学遠藤隆吉研究所 所長・商経学部 教授
趙　軍
ZHAO Jun

プロフィール

1976年鄭州大学歴史学部卒業、1982年歴史学修士、1987年歴史学博士（華中師範大学大学院）。1998年千葉商科大学商経学部助教授、2001年同学部教授。専攻分野は中国近現代史と日中関係史。著書に『大アジア主義と中国』亜紀書房1997年、『中国における大アジア主義～「聯日」と「抗日」のあいだ』ミネルヴァ書房2018年など。1995年財団法人孫中山研究会堀川哲男記念賞を受賞。

2023年度3月に新設された本学遠藤隆吉研究所は、本学の建学者遠藤隆吉博士の事績、著作、遺蹟の研究並びに顕彰を目的とし、また、遠藤隆吉先生以外の学園関係者の研究・顕彰、学校法人千葉学園・千葉商科大学及び付属高校の学園史の研究も併せて行う研究機関である。

本研究所の定常的プロジェクトメンバーは、2024年1月現在、以下のようになっている。

所長	趙　軍	商経学部 教授
副所長	朽木　量	政策情報学部 学部長・教授
兼担研究員	内田　茂男	学校法人千葉学園 理事長
兼担研究員	枡岡　大輔	基盤教育機構 准教授
兼担研究員	朱　全安	千葉商科大学 特定教授

遠藤隆吉先生は本学の創立者でありながら、本学学生やOB・OGを含め、知らない人が少なくない。残念なことと思うが、教員と研究者である我々の努力も足りないと言わざるを得ない。遠藤隆吉先生が残してくれたのは教育者としての事業だけではなく、研究者としての幅広く、豊かな学識と知見もある。先生は、社会学・哲学・東洋哲学史・教育学・政治学・心理学など複数の学問的領域にまたがって、研究と教育活動を数十年間続け、それぞれ独創的発見と見解を展開し、「人文東洋主義」「生々主義」など数々の新しい理論と主張を提起した。様々な領域で大きな足跡を残してくれた知識の巨匠、文化の巨人ともいえよう。これらの知識と知見は実に現代を生きる我々にとって大きな精神的・文化的遺産であり、千葉商科大学にとって隠れた財宝の1つと千葉学園の「共同知」として認識すべきであろう。遠藤隆吉先生のこれらの遺産を、どうやって掘り出して、再発見・再認識していくかが、まさに遠藤隆吉研究所の出発点であり、目標でもある。

遠藤隆吉研究所2023年の主な仕事は、以下の5方面をめぐって展開してきた。

一、遠藤隆吉関連資料の収集と整理。遠藤先生が多くの著述を残されており、その蒐集と整理は研究展開の基礎である。2023年度に私たちは『巣園自伝』の著書リストに基づき、本学付属図書館、校史室の所蔵図書の目録と照らして、収蔵済みとこれから収蔵すべき図書のリストアップ作業に着手した。そして、その一部の資料の電子化（PDFファイルや画像ファイルの作成など）作業が進み、国会図書館デジタルコレクションにあるすでに電子化されたデーターも蒐集し続けている。その上、蒐集された諸資料のテキスト化とデータベース化作業を進めている。

二、遠藤隆吉先生の著述のなかで未翻刻や読み下しのないものについて、活字翻刻や読み下し・解題をつけることによって資料化する作業である。例えば、読み下しのない『学問概論』の読み下し・現代語訳等の資料化について現在も作業を続けており、また、「家学の書」と呼ばれている遠藤隆吉直筆の墨蹟についての調査報告書もすでに完成しており、間もなく公開される運びになっている。

三、遠藤隆吉先生の事績・業績を辿りつつ再調査し、現地の調査研究を行う。例えば、2024年の2月に前橋所在の孝経碑ならびに遠藤先生の足跡を調査する活

動はすでに計画を立てて、実施する予定になっている。

四、遠藤隆吉先生の学問に対する研究活動である。これらの研究は主に、1）遠藤隆吉先生と近世・近代の儒学教育についての研究、2）遠藤隆吉先生の生々主義及び遠藤先生の思想にかかる哲学的研究、3）遠藤隆吉先生と漢学及び近代日中思想交流についての研究などをめぐって展開している。その一部の研究成果としては、趙軍、「大学での歴史教育の意味について」（新世紀人文学研究会『新世紀人文学論究』第７号、2023年２月）などがある。

五、我々の研究活動の内容と研究成果の学内、日本社会への発信、しいては海外への情報発信・学術交流活動である。これらの活動は主に、次のような作業からなっている。

1)創立100周年記念事業として、学生向けの定本を、朽木量と枡岡大輔諸先生が中心に編纂作業を進めている。

2）学内外への情報発信は、千葉商科大学総合研究センター編纂・出版の『CUC View&Vision』第56号には、私が投稿した「『遠藤イズム』の醍醐味を発見する旅に出掛けよう！！」と総合研究センター長・自身含む４所長が出席した「座談会」の記事が掲載され、また、９月30日に千葉商科大学総合研究センター主催の「千葉商科大学総合研究センターキックオフシンポジウム『社会科学を総合した未来のデザインに向けて』」には、私が「『遠藤イズム』の醍醐味を発見する旅に出掛けよう！！」という基調講演を行った。

3）コロナ禍の収束後、海外出張が可能になったことにつれて、海外への情報発信と学術交流も下記のように展開してきた。①８月に、私は、北京大学歴史学系主催の「博雅史学論壇　第一回」に「『漢学的革命』與『革命的漢学』――従“実学”教育到“源自郷土的世界情懐”」（中国語）をテーマとした研究発表と、②11月に、私は、北京大学主催の「北京フォーラム2023」第一分論壇に「大亜洲主義的陥穽與終結」（中国語）をテーマとした研究発表を、それぞれ行った。

4）今年度の研究活動の一端を公表するため、今年の３月をめどに、『遠藤隆吉研究所資料調査報告』の第１号を企画・編集している。この資料集はこれから年１回程度の不定期で刊行する予定で、遠藤隆吉研究所で調査した資料等を発表する出版物である。第１号には、本学本館６－２会議室に掲げられた遠藤隆吉先生の墨蹟「家学の書」を翻刻・解説する内容が中心となっている。

次年度以降、本研究所は基本として、上述の研究活動を引き続きほとんど同じ領域と同じ方向で展開する予定で、より深く、より実りのある研究成果を挙げることはメンバー一同の所存である。引き続きご応援・ご指導のほど、よろしくお願いいたします。